

大野 立志 議員

(一問一答方式)



- ①地域自治組織再編について
- ②文化財について
- ③今後の渇水対策について

地域自治組織再編について

**問** 来年度からの地域自治組織再編に関し、地域の自由闊達な活動促進となる一方、市の関与が希薄化すると懸念もある。市として自治組織に対し、深く関わりながら協働する役割を条例で示しておく必要があると考えるが、いかがか。

**答** 現在の条例では、地域自治の推進及び住民福祉の増進に資することを目的に、行政として必要な事業及び自治会との協働による取組を行うと規定されています。

当規定に則し、自治会と深く関わりを持ち、取り組む役割と責務があることは認識しており、施行規則にも具体的な協働による取組などを条文化しているため、直ちに条例改正とはなりません。自治会関係者の不安をできる限り解消するため、自治組織の再編に伴う自治会と市との協働による取組等による協定書の中に、市が深く関わりを持つという趣旨など、市の責務を追加し、引き続き地域自治の推進に努めます。

大洲城跡の保全修理工事について

**問** 大洲城石垣保存修理工事を視察したが、完了の目途が立っていない状況であり、早急な対応が必要な部分や、落石の危険性を感じる部分も見受けられる。安全性の確保、文化財保護の観点から計画的な対応が必要と考えるが、いかがか。

**答** 現在行っている石垣の積み直し工事は、現代工法のように生コンは使用せず、石と石とのかみ合わせにより強度を保つものとなっています。

石垣の解体や掘削においては、遺構や土質の確認を手作業により慎重に行い、石の積み直しの際には、石の向きやかみ合わせ、角度等を忠実に原形復旧するため、大洲城跡石垣保存修復委員会の有識者

に適宜確認をしながら、慎重に積み直しをしています。

このため、通常の工事より時間と多額の費用を要するとともに、各年度での国庫補助金を活用して対応しているため、修復計画に遅れが生じています。

城山公園の整備については、まずは城山公園西側で今現在施工中の中江藤樹像の下側と藤樹像南側の石垣修復と広場整備を優先的に行いたいと考えています。

その他の修復予定箇所については、令和6年度に計画スケジュール全体の見直しを行う予定としており、その際には新たな危険箇所の確認も行いながら、計画的に修復工事を実施していきたいと考えています。

今後の渇水対策について

**問** 今年は特に雨量が少なく、鹿野川ダムの貯水率は0%、野村ダムでも建設後初となる農業用水の取水制限が発表された。こうした状況が続く場合に飲料水や産業用水など市民生活への影響と対策はどう考えているか。

**答** 肱川の水位低下による魚類など生態系への影響が懸念され、中でもアユの生育については、来年度以降の漁獲量も心配しています。

本市としても、国が実施する魚類の生育密度や産卵場の調査などの結果を踏まえ、県や肱川漁業協同組合と情報を共有しながら対応策を協議したいと考えています。

上水道及び工業用水道への影響については、地下水や湧水、表流水などを水源として利用しており、各水源の水位変化にも注視していますが、現時点で渇水による大きな影響は生じていません。

しかし、今後も降雨が少ない状況が続く場合には、時間断水などの給水制限や応急給水活動による渇水対応を行う必要があり、市民生活や生産活動への影響を大変心配しています。

渇水対策については、短期的、長期的な対応や対策に取り組む必要があると考えており、短期的には市民一人一人による日頃からの節水、長期的には放置森林対策を行い山の保水力を高める対策が必要と考えています。